

新潟県小学校教育研究会 郡市研究レポート 上越市

今年度、家庭科部会では、児童生徒一人一人が生活の自立を目指し、生活の中から見つけた課題を解決していくための有効な支援の在り方について研究を深めてきた。会員は総勢 32 名。

授業公開を通して小学校、中学校、特別支援学校と校種の異なる会員が有効な支援の在り方を探った。

1 研究テーマ

児童生徒が生活の自立を目指し、進んで実践する態度をはぐくむ支援の工夫

2 授業の概要

平成 23 年 11 月 17 日（木）上越市立山部小学校

5・6年生（複式学級 5年4名 6年7名 計11名）

授業者 市村菜穂子教諭 GT：元学校栄養職員 宮本ハツエ

題材名 まかせてね 今日の食事 ～30分でお弁当～

参加者 小学校 16名 中学校 8名 特別支援学校 2名

3 授業内容

①《題材のねらい》日常の食生活や食品に関心をもち、1食分の弁当の用意ができるようになる。

●今までの学習を生かし、いろいろな食品を組み合わせ、1食分のお弁当の計画を立てて、調理する。栄養バランスだけでなく、自分にあったお弁当の量や彩り、季節感、家庭にある食材の利用などの工夫も考えさせるため、元学校栄養職員からお弁当作りのコツについて教えていただく。また、調理実習に使う材料を購入するために、消費者の立場から、食品選択の重要性について学習する。新鮮でより安全な食品の選び方や買い方を考えることによって、自分や家族の健康や環境のことも配慮できるようになってほしいと考えた。

買い物や調理実習を通して、家庭でも実践する意欲を高めたい。

②《本時のねらい》グループで分担したり協力したりしながら、30分で1食分のお弁当を作る。

◆30分で作るために、材料の下準備をどこまでやっておけばよいか話し合ったり、時系列の段取り表にまとめたりして、互いに確認し合う場面の設定

◆時系列の段取り表に沿って、一人が一品ずつのおかずを担当しての調理実習

◆言語活動の充実を図るために、グループ毎に工夫した点について発表し合い、互いに意見交流を行う場面の設定。

◆児童の意欲向上のために、ゲストティチャーや参会者からアドバイスをもらう場面の設定



4 研究協議

協議会には画期的な事に、小・中そして高校の家庭科教諭・JA えちご上越の職員が出席した。児童生徒の自立を目指し、実践力を高めるための支援について、小学校から高校までの発達段階に応じた授業の在り方や家庭実践へつなげる手立て、地域や他団体との連携の必要性などについて、話し合うことができ有効な支援の在り方についての糸口を探ることができた。